「100人乗っても大丈夫」という某物置のCMは，「豪雪地帯の積雪に耐えられる性能を示す」目的があると知りました。CMなので印象重視の表現だとは思いますが，そこには，安全であることを示すために「危険な条件」を定量的に把握し，それを再現できる環境をつくり，対策の効果を立証する手段が込められていた，ということでした。

本号では，鉄道車両の分野から，安全性向上を目指した取り組みを紹介しました。地震などの「滅多に起こらない」事象に対しても安全であるための技術開発とともに，事象を模擬，再現するための環境の構築にもさまざまな工夫が込められていることも知っていただけたら，と思います。

来月号の特集では「デジタル技術を活用した鉄道構造物のメンテナンス」をお届けします。最近では，誰でも手にできるスマートフォン1台で，高画質な画像を位置情報とともに大量に記憶し高度な画像処理も可能で，「デジタルデータ」を取り扱う技術の進歩と普及には目覚ましいものがあります。鉄道総研では，このような「デジタル技術」を鉄道のメンテナンスに活用する研究にも取り組んでおり，次号ではその一部をご紹介します。どうぞご期待ください。(S.N.)